

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立高島小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 最終評価はおおむね「A:十分達成できている」どの達成度(評価)であった。 今年度は校内研究の成果で、高島を愛する児童の育成ができた。 児童は生活習慣に気を付け、自分も仲間も大切にすることで、安全安心な学校生活が送れている。 今年度も、地域の方の協力を得て多くの体験活動を実施することができた。島の活性化の一助となるよう、今後も、高島ならではの特色ある学校づくりを推進していく。
---------------	---

2 学校教育目標	「未来をひらく」チーム高島 ～学びに熱中し、“未来をひらく基礎力”をつける～
----------	--

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①一人一人が自分のよさや可能性を発揮し、自信や意欲を高められる学校 ②家庭や地域と連携・協働し、郷土愛を育む学校 ③教育環境が整った、誰もが安心して学べる学校
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目							
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○基礎的な学力の定着 ○協働的に学ぶ児童の育成 ○コミュニケーションスキルの向上 ○全職員による共通理解と共通実践	○アンケートで「授業内容がよく分かった」と回答した児童70%以上 ○「友達と協力して学習に取り組んだ」と回答した児童70%以上 ○「授業内で話す・書くなどの言語活動を行った」と回答した児童70%以上 ○学力向上対策評価シートを基に作成したマイプランの成果指標を達成した教師75%以上	・学習内容の未定着部分の反復練習。 ・児童同士が共に協力して問題解決に当たる場を積極的に設ける。 ・児童の成長過程に合わせた話型提示。 ・教師間でマイプランを共有するとともに、校内研修で取組んだり、学期ごとに内容の情報交換を行ったりする。	A	「授業内容がよく分かった」と回答した児童は86%で、児童は学力の向上を自覚することができていた。 「友達と協力して～」が83%、「授業内での～」と回答した児童は75%で、中間評価よりも低い結果となった。 マイプランの成果指標に関するアンケートでは、80%以上の教師がマイプランを基に教育実践ができていたと回答しており、成果指標は達成できている。	A	・少人数のためわからないことも尋ねやすく、学力が身につくと思う。 ・学習習慣も身につけていると思う。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○アンケートで「自分が大切だ、他の人も大切だと認めている」児童が70%以上になるようにする。	・月に1度思いやりの言動をとっている児童を称賛する。(人権集会等)	A	・アンケートで、「自分も他の人も大切だと思う」と回答した児童は、81%で、当初設定した目標(70%)には到達したが、中間評価よりかは、減少した。	A	・これからも学校目標達成に向けて取り組んでほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○なかよしアンケートの5・6項目について肯定的な回答をした児童が80%以上になるようにする。	・教職員の情報共有を密にし、児童の悩みや困り感の解決に繋げる。 ・いじめ防止対策として、定期的に教職員の研修を開き、いじめの未然防止に努める。 ・道徳科を中心に、いじめや差別をなくす授業に取り組む。 ・全校で人権に関するアクティビティなどを行い、感想交流を通して、人と関わること、共によりよく生きることなどについて、考える機会とする。	A	・なかよしアンケートの5・6項目について肯定的な回答をした児童は93%で、児童同士の良好な人間関係を築くことができ、心理的に安定した集団だといえる。	A	・児童が仲良く過ごせているのがよい。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童70%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について自分なりの考えをもっている児童70%以上	・日頃から児童一人一人の寄り添い、良いところを褒める。 ・将来の夢や目標をもつことの大切さについて語ったり、道徳教材で扱ったりする。 ・キャリアパスポートを利用して、各行事などでの振り返りに対して児童の頑張りや得た力を賞賛するとともに、将来へのつながりを持たせたコメントを記して、児童の将来への意欲を持たせる。	A	・「先生は～」については、100%の児童が肯定的な回答をしていて、教師への信頼を基盤に、高い自己肯定感を持って意欲的に活動しているといえる。 ・「いま、自分の夢や目標がある」と回答した児童は86%で、保護者からも「指導の成果が感じられる」と回答があった。外部講師を招いてのキャリア教育も今年度3回実施できた。	A	・いろいろな立場や考え方の方から話を聞くことは児童のためになると思う。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ●「健康を考えて行動できる能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童生徒70%以上 ●「健康は何より大切だ」「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた児童生徒70%以上	・発育測定、健康診断、学校三師による保健指導、保健だよりなどにより情報を発信する。 ・保護者への個別の連絡	A	・「健康に良い食事をしている」と回答した児童が85.7%だった。 ・「健康は何より大切だ」「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と回答した児童が81%で当初設定した目標には達成したが、中間評価よりかは若干減少した。	A	・欠席もなく元気に登校できていてよい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・月の時間外在校等時間が45時間を越える職員の割合を0にする。 ・職員1人当たり14日以上年次休暇が取得できるように、休みやすい年間計画を立てたり、職員自身が計画的な休みの取得の仕方を考えるように促していく。	A	・月の時間外在校等時間は年間を通して45時間を越える職員は0人で達成できた。 ・しかし、年休14日の取得は達成できなかった。	A	・先生方の人数が少なく大変だと思う。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員70%以上	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・校内教育支援委員会の開催、関係者間での情報共有	A	・「特別支援教育に関する専門性が向上した」との回答が75%で、当初設定した目標に達成した。 ・「特別支援教育ミニ研修会」を3回実施した。	A	・児童一人ひとりにより良い関わり方をしてもらっている。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○校内研究の推進	◎学びを通して、自分のよさに気づき、そのよさを学びに生かそうとする児童の育成	○アンケートで学びを通して自分のよさに気づき、自信や意欲を高められる学校	・年に2回以上アンケートを実施する。 ・児童の実態を把握し自分のもてる力を有効に活用できる授業方法を考え、実施する。	A	・学習を通して自分のよさ・強みに気づいたり、学びに生かしたりすることができると75%以上の児童が答えた。 ・児童のよさ・強みを生かし、課題克服への具体的な授業の工夫を80%以上の教員が行っている。	A	・島民との関わりをもっと増やせたらいいと思う。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 最終評価はおおむね「A:十分達成できている」どの達成度(評価)であった。 児童が教師に自分の良さを認めてもらっていると感じていて、児童自身自分のよさに気づき、自己肯定感を高めることができた。 児童は生活習慣に気を付け、自分も仲間も大切に、教員との信頼関係もできているため、安全安心な学校生活が送れている。 今年度も、地域の方々の協力を得て多くの体験活動を実施することができた。次年度は学校選択制での児童も入ってくるので、今後も、島の活性化の一助となるよう、高島ならではの特色ある学校づくりを推進していく。
----------------	---